



南部町立南部中学校 学校だより 第12号

# チーム南部中

令和4年10月4日  
校長 望月和彦

## テーマ『Change』を実現した『第12回輝城祭』

9月17日(土)「Change」をテーマにした第12回輝城祭を開催しました。天気予報を基に、午後の体育の部と午前の文化の部を入れ替えさせていただきました。保護者の皆様には、予定していた来校時間を変更していただくことになり、ご迷惑をおかけしましたが、この一日で完全燃焼させてやりたいという思いからの変更だったことにご理解願います。

張り詰めた雰囲気の中で始まったオープニングでは、生徒会事務局が寸劇とスライドで、会場の雰囲気盛り上げ、今年度のテーマ「Change」の意味を確認し、この輝城祭を通して個人も集団もより良く変化していこうと訴えました。そして、ウッドデッキに移動しての「ソーラン節」。3年生一人一人の顔、表情、動きから、「3年間で最高の輝城祭にしたい」「自分が持っている力を精一杯表現したい」という思いが伝わってくる演技でした。昨年度の観客は1・2年生だけでしたが、今年度は3年生の保護者にも、その勇姿を見てもらえたことが良かったです。ソーラン節の最後に芦川圭澄生徒会長が堂々と開祭宣言を行い、開祭式の中で全校制作と学級旗が披露されました。今年度の全校制作は、全校生徒一人一人がつくったちぎり絵のパーツを組み合わせてできあがったテーマと平和を意識した作品で、体育館の壁に掲示されました。6枚の学級旗の図案にはそれぞれの学級の強い思いが込められており、どれも学級団結のシンボルとして素敵な作品でした。体育の部では応援旗として振られ、今後も教室で大切にされることとなります。

開祭式後は、グラウンドに移動し体育の部です。今年度は「8の字跳び」「棒取り」「縦割りリレー」「台風の目」「背中渡り」の5種目が行われました。この日のために学級ごとに作戦を練り、練習を何度も何度も繰り返し、時には仲間同士で意見がぶつかり合ったり、気持ちが折れそうになった仲間が出たり、そうした危機や課題を乗り越える中でどの学級にも強い絆がつけられていく様子が見られました。本番では練習よりも良い結果を出せた学級もあれば、気持ちが高まりすぎて練習通りの結果が残せなかった学級もあったようです。勝ち負けはあったとしても、競技中の生徒たちの表情を見れば、どれだけ仲間と気持ちを合わせ、みんなで目標目指してがんばってきたのかがわかります。保護者や来賓の方々から「青春って素敵ですね」「若さのエネルギーってすごいですね」「うらやましいです」という言葉を聞きました。結果はクラス対抗では3年A組が、系列対抗では白組が優勝しました。体育部門の最後のフォークダンスも全校生徒が楽しみ、シンギスカンには私や学級担任も引っ張り込まれるという盛り上がりでした。足を怪我して放送担当をしていた田中景農さんを学年の仲間が呼びに来て、輪の真ん中に連れていくという素敵な場面も見られました。

お弁当を食べて、午後は体育館で文化の部です。トップバッターは美術文芸部。今年度は段ボールアー



トを発表してくれました。20個の段ボール箱の面を組み合わせると素敵な絵ができあがるというものです。一つ目は季節の変化を描いた作品「春夏秋冬」。二つ目は風景の変化を描いた作品「地下・海・空・山」。三つ目は私たちが日々変化し成長している場所を描いた作品「私たちの学校」でした。部員全員で構想を練り、下絵を描き、色を塗って完成した絵を段ボールに貼り付け、本番では全員でステージ上に素敵な作品を見せてくれました。美文の次は吹奏楽部です。部員の6割が1年生という吹奏楽部ですが、夏のコンクールに向けた猛練習もあり、今ではとても堂々としたチームになっています。コンクール曲の「ガラスの千切り絵」をはじめ、「ディズニープリンセスメドレー」など6曲を披露してくれました。吹奏楽部員の楽しいMCや工藤花教諭の初めての指揮もあり、会場は曲の演奏に合わせた手拍子で盛り上がりました。美術文芸部も吹奏楽部も3年生はこれで引退となります。これまで築き上げてきた南部中の文化というバトンをしっかりと1・2年生に渡してくれました。



文化の部の後半は学年発表です。

1学年発表は演劇「夏休み」。太平洋戦争直前の夏休みに七つ森小学校6年生たちが肝試しで体験したことをもとに平和の大切さや戦争の悲惨さを考えさせる劇でした。中学校で初めて取り組んだ演劇でしたが、それぞれの役柄を自分たちで考え、役者はもちろん大道具、音響、照明などのスタッフ全員で協力して劇を創り上げました。2学年発表は演劇「学園パニック」と「ダンス」です。芸能学校で、新校長によって退学させられそうになった生徒が、仲間の応援を得ながら退学を取り消してもらうために奮闘する物語です。漫才コンビ、歌手、マジシャン、一人芝居芸人などの役柄になった2年生が、それぞれの特技や隠れた個性をステージで表現しました。演劇の前には映画館を思わせるコントがあったり、演劇の後には男女のダンスチームによる軽快なダンスの発表もあったり、すべての生徒の良さにスポットを当てるといふねらいを感じた発表でした。そして3学年発表は演劇「ふるさと」。廃校を目前に控えたある小学校の5年教室に関西弁の転校生がやってきます。小学校や故郷に何の思いも持たない子どもたちが、転校生との出会いや事件を通して少しずつ気持ちが変わり、固まった心が溶けるように一つにまとまっていくという物語。中学校生活で様々な力を付けてきた3年生が、1・2年生の演劇を見て、3年生の意地を見せたいという思いが伝わってくるような演技でした。それぞれの役柄を深く理解し、その人物ならどう考え、どんな表情をして、どういう声のトーンで、どう行動するかなど、役柄を細部まで考えて演じていました。ダブルキャストで練習し当日はステージに立て



なかった役者、大道具、小道具、照明、音響、監督など、陰で支えていた生徒たちも含めて3年生全員で心に残る発表を完成させました。各学年の発表を参観していただいた保護者や来賓の方々から「1年前の小学生がこんなに成長するなんてビックリです」「中学生のはかりしれないエネルギーを感じました」「たくさん泣かせてもらいました」など賞賛の言葉をたくさんいただきました。

そして、閉祭式。輝城祭の取り組み期間の様子をスライドで振り返り、各年代表と各部門長から感想発表がありました。多くの生徒から取り組みと本番を通して達成感や満足感を感じられたこと。そして、当日の成功で終わりではなく、輝城祭の取り組みの中で身につけられた力を今後の中学校生活の中で生かしていきたいということが語られていたことが良かったです。たった1日の輝城祭でしたが、中身の目一杯詰まった1日になりました。1学期からの取り組みと当日の本番を通して、生徒一人一人は様々な場面で成長し、学級や学年、全校集団は様々な部分でレベルアップできたと感じます。まさにテーマ「Change」にふさわしい輝城祭になりました。

